

### 第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選び、正確に記入すること。

|      |       |       |       |      |
|------|-------|-------|-------|------|
| 普通預金 | 当座預金  | 受取手形  | 売掛け金  | 立替金  |
| 仮払金  | 手形貸付金 | 建物    | 備品    | 土地   |
| 支払手形 | 買掛け金  | 未払金   | 手形借入金 | 資本金  |
| 給料   | 消耗品費  | 旅費交通費 | 租税公課  | 支払利息 |

- 建物および土地の固定資産税 ¥ 500,000 の納付書を受け取り、未払金に計上することなく、ただちに当座預金口座から振り込んで納付した。
- かねて手形を振り出して借り入れていた ¥ 1,000,000 の返済期日をむかえ、同額が当座預金口座から引き落とされるとともに、手形の返却を受けた。
- 従業員が出張から帰社し、旅費の精算を行ったところ、あらかじめ概算額で仮払いしていた ¥ 50,000 では足りず、不足額 ¥ 25,000 を従業員が立替払いしていた。なお、この不足額は次の給料支払時に従業員へ支払うため、未払金として計上した。
- 1株当たり ¥ 100,000 で 15 株の株式を発行し、合計 ¥ 1,500,000 の払込みを受けて株式会社を設立した。払込金はすべて普通預金口座に預け入れられた。
- 事務用のオフィス機器 ¥ 550,000 とコピー用紙 ¥ 5,000 を購入し、代金の合計を普通預金口座から振り込んだ。

### 第2問 (10点)

次の [資料] にもとづいて、間に答えなさい。

#### [資料] X1年5月中の取引

- 2日 先月に大阪商事株式会社から掛けで仕入れた商品 ¥ 20,000 を品違いのため返品し、同社に対する掛代金から差し引いた。
- 16日 土地 180 m<sup>2</sup> を 1 m<sup>2</sup> 当たり ¥ 30,000 で取得し、代金は小切手を振り出して支払った。なお、整地費用 ¥ 198,000 は現金で支払った。
- 18日 九州商事株式会社に商品 ¥ 450,000 を売り上げ、代金のうち ¥ 40,000 は注文時に同社から受け取った手付金と相殺し、残額は掛けとした。なお、同社負担の発送費 ¥ 3,000 は現金で立て替え払いしたので、この分は掛代金に含めることとした。
- 25日 京都商事株式会社に対する売掛金（前期販売分）¥ 370,000 が貸し倒れた。なお、貸倒引当金の残高は ¥ 160,000 である。

問1 X1年5月中の取引が、答案用紙に示されたどの補助簿に記入されるか答えなさい。なお、解答にあたっては、各取引が記入されるすべての補助簿の欄に○印をつけること。

問2 X1年10月30日に、X1年5月16日に取得した土地すべてを 1 m<sup>2</sup> 当たり ¥ 36,000 で売却した。この売却取引から生じた固定資産売却損益の金額を答えなさい。なお、答案用紙の（ ）内の損益かのいずれかに○印をつけること。

### 第3問 (30点)

次の [資料1] および [資料2] にもとづいて、答案用紙のX1年9月30日の残高試算表を作成しなさい。

#### [資料1] X1年8月31日の残高試算表

#### 残高試算表

X1年8月31日

| 借 方        | 勘 定 科 目           | 貸 方        |
|------------|-------------------|------------|
| 344,000    | 現 金               |            |
| 1,359,000  | 当 座 預 金           |            |
| 650,000    | 受 取 手 形           |            |
| 780,000    | クレジット売掛け金         |            |
| 75,000     | 前 払 金             |            |
| 360,000    | 繰 越 商 品           |            |
| 300,000    | 貸 付 金             |            |
| 600,000    | 備 品               |            |
| 200,000    | 差 入 保 証 金         |            |
|            | 支 払 手 形           | 376,000    |
|            | 買 掛 金             | 529,000    |
|            | 所 得 税 預 り 金       | 20,000     |
|            | 貸 倒 引 当 金         | 40,000     |
|            | 備 品 減 働 償 却 累 計 額 | 180,000    |
|            | 資 本 金             | 1,500,000  |
|            | 繰 越 利 益 剰 余 金     | 968,000    |
|            | 売 上               | 7,600,000  |
| 3,300,000  | 仕 入               |            |
| 1,600,000  | 給 料               |            |
| 430,000    | 水 道 光 熱 費         |            |
| 1,000,000  | 支 払 家 賃           |            |
| 129,000    | 支 払 手 数 料         |            |
| 86,000     | 消 耗 品 費           |            |
| 11,213,000 |                   | 11,213,000 |

#### [資料2] X1年9月中の取引

- 1日 貸付金 ¥ 300,000 の満期日になり、元利合計が当座預金口座に振り込まれた。なお、貸付利率は年4%、貸付期間は3か月であり、利息は月割計算する。
- 2日 商品 ¥ 240,000 を仕入れ、代金のうち ¥ 75,000 は注文時に支払った手付金と相殺し、残額は掛けとした。
- 3日 商品 ¥ 600,000 をクレジット払いの条件で販売するとともに、信販会社への手数料（販売代金の4%）を計上した。
- 5日 買掛け金 ¥ 180,000 の支払いとして、同額の約束手形を振り出した。
- 6日 先月の給料にかかる所得税の源泉徴収額 ¥ 20,000 を現金で納付した。
- 8日 オフィス拡張につき、ビルの4階部分を1か月当たり ¥ 160,000 で賃借する契約を不動産業者と締結し、保証金（敷金）¥ 320,000 と不動産業者に対する仲介手数料 ¥ 160,000 を当座預金口座から支払った。
- 12日 商品 ¥ 390,000 を仕入れ、代金として同額の約束手形を振り出した。
- 13日 商品 ¥ 200,000 を売り上げ、代金として相手先が振り出した約束手形を受け取った。
- 16日 支払手形 ¥ 250,000 が決済され、当座預金口座から引き落とされた。
- 19日 クレジット売掛け金 ¥ 780,000 が当座預金口座に振り込まれた。
- 20日 給料 ¥ 300,000 の支払いに際して、所得税の源泉徴収額 ¥ 15,000 を差し引き、残額を当座預金口座から支払った。
- 21日 受取手形 ¥ 470,000 が決済され、当座預金口座に振り込まれた。
- 22日 水道光熱費 ¥ 77,000 と家賃 ¥ 360,000 が当座預金口座から引き落とされた。
- 26日 買掛け金 ¥ 220,000 を当座預金口座から支払った。
- 27日 商品を購入する契約を締結し、手付金として現金 ¥ 40,000 を支払った。

## 第4問 (10点)

次の各取引の伝票記入について、空欄①～⑤にあてはまる適切な語句または金額を答えなさい。ただし、当社では3伝票制を採用している。また、全額を掛取引として起票する方法と取引を分解して起票する方法のいずれを採用しているかについては、取引ごとに異なるため、各伝票の記入から各自判断すること。

- (1) 商品を ¥500,000 で売り上げ、代金のうち ¥50,000 については現金で受け取り、残額は掛けとした。

| (①) 伝票 |     |
|--------|-----|
| 科 目    | 金 領 |
| ( )    | (②) |

| 振替伝票 |         |      |         |
|------|---------|------|---------|
| 借方科目 | 金額      | 貸方科目 | 金額      |
| (③)  | 500,000 | 売 上  | 500,000 |

- (2) 商品を ¥300,000 で仕入れ、代金のうち ¥30,000 については現金で支払い、残額は掛けとした。

| ( ) 伝票 |     |
|--------|-----|
| 科 目    | 金 領 |
| 仕 入    | ( ) |

| 振替伝票 |     |      |     |
|------|-----|------|-----|
| 借方科目 | 金額  | 貸方科目 | 金額  |
| (④)  | ( ) | ( )  | (⑤) |

## 第5問 (30点)

次の(1)決算整理前残高試算表と(2)決算整理事項等にもとづいて、答案用紙の貸借対照表と損益計算書を完成しなさい。消費税の仮受け・仮払いは、売上取引・仕入取引のみで行うものとし、(2)決算整理事項等の7.以外は消費税を考慮しない。なお、会計期間はX1年4月1日からX2年3月31日までの1年間である。

## (1) 決算整理前残高試算表

| 借 方        | 勘 定 科 目       | 貸 方        |
|------------|---------------|------------|
| 183,000    | 現 金           |            |
| 577,000    | 当 座 預 金       |            |
| 491,000    | 売 掛 金         |            |
| 200,000    | 繰 越 商 品       |            |
| 240,000    | 仮 払 消 費 税     |            |
| 1,200,000  | 備 品           |            |
| 2,700,000  | 土 地           |            |
|            | 買 掛 金         | 593,000    |
|            | 借 入 金         | 400,000    |
|            | 仮 受 消 費 税     | 440,000    |
|            | 貸 倒 引 当 金     | 300        |
|            | 備品減価償却累計額     | 375,000    |
|            | 資 本 金         | 2,000,000  |
|            | 繰 越 利 益 剰 余 金 | 1,521,700  |
|            | 売 上           | 5,500,000  |
| 3,000,000  | 仕 入           |            |
| 1,800,000  | 給 料           |            |
| 300,000    | 支 払 家 賃       |            |
| 41,000     | 水 道 光 熱 費     |            |
| 62,000     | 通 信 費         |            |
| 24,000     | 保 険 料         |            |
| 12,000     | 支 払 利 息       |            |
| 10,830,000 |               | 10,830,000 |

## (2) 決算整理事項等

- 現金の実際有高は ¥179,000 であった。帳簿残との差額のうち ¥2,100 は通信費の記入漏れであることが判明したが、残額は不明のため、雑損または雑益として記載する。
- 売掛代金の当座預金口座への入金 ¥62,000 の取引が、誤って借方・貸方ともに ¥26,000 と記帳されていたので、その修正を行った。
- 当月の水道光熱費 ¥3,500 が当座預金口座から引き落とされていたが、未処理であった。
- 売掛金の期末残高に対して 2 % の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
- 期末商品棚卸高は ¥174,000 である。
- 備品について、残存価額をゼロ、耐用年数を8年とする定額法により減価償却を行う。
- 消費税の処理（税抜方式）を行う。
- 借入金はX1年6月1日に借入期間1年、利率年6 % で借り入れたもので、利息は11月末日と返済日に6か月分をそれぞれ支払うことになっている。利息の計算は月割による。
- 支払家賃のうち ¥150,000 はX1年11月1日に向こう6か月分を支払ったものである。そこで、前払分を月割により計上する。

解答は、すべて答案用紙に記入して必ず提出してください。

3級

2019年度  
第152回簿記検定試験  
問題用紙

(午前9時開始 制限時間 2時間)

(2019年6月9日(日)施行)

日本商工会議所  
各地商工会議所

受験者への注意事項

- 答案用紙は、持ち帰りできませんので必ず提出してください。持ち帰った場合は失格となり、以後の受験をお断りする場合があります。
- 答えは、定められたところに、誤字・脱字のないよう、ていねいに書いてください。
- 答案の記入にあたっては、黒鉛筆または黒シャープペンシルを使用してください。